

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- ・創意工夫を生かした質の高い授業及び考查を実施し、主体的な学習態度を育成する。
- ・部活動や学校行事を推進し、自主、協働、厚意の精神を育成する。
- ・主体的に行動しながらも協働の価値を理解し、多様な意見を受け入れ、協働する精神を育成する。
- ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活させる。
- ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる深化を図る。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- ・問題解決能力。
- ・情報収集、分析能力。
- ・自己達成感、自己肯定感を感じる心。
- ・自分や周りの人を気遣う心。
- ・集団の中で、自分らしさを発揮することができる能力。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・自ら課題を考え出す力。
- ・考えをまとめる力。
- ・プレゼンテーション力。
- ・学ぶことの意味、喜びを感じる心。
- ・自他を大切にできる心。
- ・集団で活動できる力。

生徒の実態

- ・県南部を中心に各校のリーダーとして活躍した生徒が多く集まっている。
- ・保護者が教育に熱心であることから、たいへん素直で実直に物事に取り組む生徒が多い。
- ・個性豊かな生徒が集まり、多様性を感じられる一方で自信をなくしてしまう生徒もいる。
- ・様々な学校行事や学習活動を通し、成長の場が用意されている。学校の行事や部活動・委員会活動に、積極的に参加する生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・教育相談・カウンセリングの充実。
- ・生徒に多様性を知ってもらう機会の提供。
- ・職員の研修を行い、サポート体制を整える。特別に配慮を要する場合は、特別チームを構成し、対応に当たる。

目指す生徒の姿

- ・自分で課題を見つけ、自分で考え、問題を解決できる。
- ・心身ともにたくましさ身に付ける。
- ・自分の適性をみつめ、将来のデザインを考えることができる。
- ・様々な個性を受け入れ、異なる考え方も柔軟に受け入れることができる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

- ・高校生としての心構え。一高生としてのスタイルを確定する。
- ・集団生活と個人。生徒自らが企画運営し、集団で活動することの良さや意義を体感する機会とする。
- ・道徳教育。考える。相談する。まとめる。教材を通じて、答えのない様々な社会問題の解決について考えるきっかけとする。
- ・ボランティア活動。普段なかなか感じられない、周囲の環境や学校外の方々との関係性を見つめ直すきっかけ作りをする。
- ・職業と進路① 本校の人的財産を活用し、職業を考える機会を提供する。
- ・職業と進路② 本校の人的財産を活用し、キャリア教育を実践する。
- ・職業と進路③ 本校の人的財産を活用し、進路を考える機会を提供する。
- ・芸術について 芸術的表現活動をとおして他者理解や異文化理解を深める。
- ・人文科学探究 人文科学分野についてテーマを設定し探究活動を実施する。
- ・自然科学探究 自然科学分野についてテーマを設定し探究活動を実施する。
- ・国際理解 様々な言語や文化を持つ人々と交流し、グローバルな考え方、見方を身に付ける。さらに世界の中で日本人が果たすべき役割について考える機会を提供する。

学習活動、指導方法等

課題探究

- ・世界や日本、地域の問題点を考え、問題解決のための情報収集を行う。問題を象徴するキーワードを調べて仮説を立てる。
- ・探究テーマの設定とこれからの探究計画を作る。
- ・情報を収集・分析し、結果を中間発表して共有する。
- ・他者の意見を参考に、多面的な見方を展開する。
- ・まとめと発表。研究結果とこれからの課題について考える。

進路探究

- ・職業と進路を調べる。
- ・興味のある職業や学問について、レポートにまとめる。
- ・自分の考え発表し、情報を共有する。
- ・卒業生との交流を通じて、進路の選択の幅を広げる。
- ・各種の講演会やガイダンス、研究室訪問等を通じて世界観を広げる。

協働学習

- ・学校行事、修学旅行、共同宿泊学習を通して集団活動の良さや意義を学ぶ。自然に触れ、環境問題や地域文化の良さについて理解を深める。
- ・道徳教育を推進する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・探究学習推進室が中心となり、学年や教務と連携をとりながら学習計画を進める。
- ・探究学習が進めやすいように、コンピュータ室をはじめ、生徒が活動しやすいネットワーク環境を整備する。
- ・本校の教員だけでは指導に限界がある。卒業生をはじめ、大学の先生や大学生、留学生や外国人の講師、社会人等、校外の人と連絡の取れる環境を整える。
- ・探究結果を共有、フィードバックする機会を設け、探究学習がさらに深化するよう、地域の方や保護者の方、地元公官庁や企業等にも協力を依頼する。